

昭和 11	1936 二二六事件	青年将校、官邸など占拠、昭和維新を訴えたが、天皇は拒否。
昭和 13	1938 <b>国家総動員法</b>	国家のすべての人的・物的資源を政府が統制運用できる旨
昭和 14	1939 ノモンハン事件	
昭和 16～20	1941～45 太平洋戦争	

**日露戦争記念碑** 全国に普遍的。大国に勝ったと宣伝、軍国主義強化・精神主義的神話（白兵戦至上主義や「弾が無くても勝てる」など）を創りだすのに利用。総力戦、戦死 8 万 8000 人、明治 36 年の国民総所得と同じ 18 億円の戦費。身近に戦争犠牲者。悼む気持ちを国家に引き寄せるため碑の建設を奨励した背景。国家への忠誠心養成・戦争美化・銃後協力を国民に強制する象徴としての機能を果たした。太平洋戦争の犠牲も、この思想の延長にあることが分る。「陸軍〇兵〇等卒」「勲〇等」「功〇級」「輜重兵（しちょうへい）」などの字。

## ②プラスアルファの参考資料

- 『近代史家の見る「明治 150 年」』（渡辺京二氏）
- 『文芸春秋』2018.10 号から—日本型悪人
- 『外骨戦中日記』
- 『戦後入門』（加藤典洋著）
- 『戦争まで—歴史を決めた交渉と日本の失敗』（加藤陽子著 2016 年 8 月 10 日刊 朝日出版社）
- 『日本のスパイ王』（斎藤充功著 Gakken 2016.12 刊）
- 『日本はなぜ、「戦争ができる国」になったのか』（矢部宏治著 2016 年 5 月刊 集英インターナショナル）
- 『満洲暴走 隠された構造 大豆・満鉄・総力戦』（安富歩著 2015 刊 角川新書）
- 『日本国憲法を生んだ空白の九日間』（鈴木昭典著 創元社 1995）
- 『新世界秩序』21 世紀の「帝国の攻防」と「世界統治」（ジャック・アタリ著 山本規雄訳 作品社 2018.7 刊）
- 『西郷隆盛という生き方』桐野作人・調所一郎・徳永和喜・西郷隆文・若松宏・福岡孝純・徳田英子著（里文出版 2017.12.7 刊）
- 『戦争とトラウマ—不可視化された日本兵の戦争神経症—』（中村江里著 吉川廣文館 2018.1 刊）
- 『大久保利通と東アジア』（勝田政治著 吉川弘文館 2016 刊）
- 『大西郷という虚像』（原田伊織著 悟空出版 2016 年 6 月刊）
- 『明治維新という過ち』（原田伊織著 2011 紀伊國屋書店）
- （ネット）パナイ号事件 **参根藩士**
- 「西郷南洲翁基隆蘇澳を偵察し、『嘉永四年南方澳に子孫を遺せし物語』」
- 「歴史を見る目を育てる」—『婦人之友』2016 年 8 月号の井出孫六・三沢亜紀の対談
- 『あたらしい道徳』（北野武著）
- 『日本はなぜ「基地」と「原発」を止められないのか』（矢部宏治著 集英社インターナショナル）
- 『ある歩兵の日露戦争従軍日記』（茂沢祐作著 草思社）
- イスラームを考える（イスラーム断層）—地理学の研究・教育を通して—鹿大名譽教授 田島康弘
- 『日本会議の正体』（青木理著 平凡社 2016 刊）
- 『インパール作戦従軍記—葦平「従軍手帳」全文翻刻』（火野葦平著。解説 渡辺考 増田周子）
- 『インパール作戦従軍記—新聞記者の回想—』（丸山静雄著 岩波新書 1988 刊）
- 『失敗の本質—日本軍の組織論的研究—』（6 人の執筆 ダイヤモンド社 S59）（『失敗の本質』から）